

■ 清須市地域公共交通計画に係る取組状況の評価（案）

1 施策の実施状況

基本方針	目標	達成指標	令和4年度		取組状況の評価
			目標	実績	
I	①あしがるバスを核とした移動利便性の向上	鉄道との乗継を考慮したあしがるバスのルート設定	実施	ルート・ダイヤ改正を実施	市内に複数ある鉄道駅へのあしがるバスの乗り入れを継続するとともに、ルート・ダイヤ改正により、新たに名鉄新清洲駅北口へ乗り入れるほか、JR清洲駅から帰宅しやすいダイヤを導入した。
	②鉄道・バスを利用できない障害者・要介護者等を対象とした移動手段（STS（※1））の確保	タクシー料金助成制度の継続実施	実施	制度に基づき実施	障害者に対するタクシー料金助成制度を実施し、福祉の推進、外出機会の確保・増加を図った。
		福祉有償運送制度の継続実施	実施	制度に基づき実施	また、障害者や要介護者等に対する安全・安心な輸送サービスを確保するため、福祉有償運送制度の適切な運用を図り、3法人が継続して実施した。
II	④地域公共交通に関する積極的な情報発信	あしがるバス利用促進イベント等の開催回数	1回以上	1回	3年ぶりにバスの乗り方教室や春日五条川さくらまつりでのPRイベントが開催でき、10月に実施したルート・ダイヤ改正の周知等、あしがるバスの利用促進に繋がる活動が実施できた。 名古屋タクシー協会からの情報提供を受け、市ホームページで紹介した、タクシーにおける新型コロナウイルス感染防止対策に関するページを引き続き掲載した。
		コミュニティバス乗り方教室の開催回数	1回以上	1回	
		タクシーに関する情報発信	実施	計画通り実施	
	⑤地域公共交通サービスの充実	バスロケーションシステムの運用	運用	計画通り運用	バスロケーションシステムを運用し、バスの運行状況を発信するとともに、お知らせ欄を活用してイベントの周知をした。また、問い合わせ対応時には当システムを紹介し、システムの活用を促した。 ルート・ダイヤ改正に合わせてバス情報のオープンデータ化を実施し、バスロケとGTFSを連携させ、遅延情報にも対応したGoogle乗換案内ができるよう整備した。
		バス情報のオープンデータ化	検討	実施	
	⑥安心・安全かつ円滑・快適に利用できる駅前環境の整備	自転車等放置禁止区域の見回りの実施	実施	計画通り実施	定期的に自転車等放置禁止区域の見回りを実施し、自転車の放置防止に関する啓発に努めている。 清洲駅前土地区画整理事業では、区画道路の道水路築造、埋蔵文化財調査及び移転補償を行った。 新清洲駅北土地区画整理事業では、前年度から引き続き建物等の移転補償を進め、併せて雨水排水路、上下水道、ガス等の整備を行い、道路の築造を実施した。また、令和3年度から着工していた仮線用地を除く暫定駅前広場及び県道（新清洲駅北線）の工事が完了し、令和4年9月末に開通した。
土地区画整理事業の推進（JR清洲駅）		実施	計画通り実施		
土地区画整理事業の推進（名鉄新清洲駅）		実施	計画通り実施		
III	⑦市民・交通事業者・行政の協議の場づくり	地域公共交通会議の開催回数	3回以上	3回	地域公共交通会議を3回開催し、ルート・ダイヤ改正に向けた啓発事業や地域公共交通確保維持改善事業費補助金に関する議題を中心に、市民、交通事業者、関係団体との協議を行った。 今後も、清須市地域公共交通計画に基づき、適切に会議を開催し、地域公共交通の推進を図っていく。
		地域公共交通会議への市民委員の参加	参加	参加	
	⑧市民ニーズの把握	市民アンケート調査等の実施	—	—	次回は、令和5年度に「公共交通に関する市民アンケート調査等」を実施し、次期地域公共交通計画に向けて市民ニーズや実際の乗車状況を把握する予定。

※1 STS（Special Transport Service スペシャル・トランスポート・サービス）とは、障害者、要介護者等の移動制約者を対象とした個別輸送サービスの総称。

2 施策実施の成果

基本方針	目標	達成指標	令和4年度		取組状況の評価
			目標値	実績値	
I	①あしがるバスを核とした移動利便性の向上	あしがるバスの収支率	8.9%	8.3%	<p>あしがるバスの収支率については、長引く原油価格の高騰により燃料油脂費が高止まりしている一方で、あしがるバスの利用者数は徐々にコロナ禍前の状況に戻りつつあり、目標値を下回る結果であったが昨年より目標値との乖離は小さくなった。</p> <p>あしがるバスの利用者数は、回復傾向が続いている状況であり、ルートによっては新型コロナウイルス感染症の流行前の利用者数まで回復しているが、全体としては戻りきっていない。その要因として、あしがるバスは買い物の移動手段として利用されることが多いが、新型コロナウイルス感染症の流行下において普及したオンラインショッピングの活用やまとめ買いなど生活スタイルが変化していることが考えられる。</p> <p>今後は、利用者数の回復と新規利用者の獲得に向けて、イベント等に合わせて利用促進施策を継続実施するとともに、引き続き令和4年10月施行のルート・ダイヤ改正の周知に努める。</p>
		あしがるバスを利用したことがある人の割合（※2）	—	—	
		あしがるバスの利用者数（年間）	93,200人	76,035人	
		【参考】 オレンジ	17,800人	14,029人	
		グリーン	27,600人	25,626人	
	サクラ	30,000人	22,990人		
ブルー	17,800人	13,390人			
		あしがるバスの利用者数（1便あたり）	5.9人	4.8人	
		【参考】 オレンジ	4.5人	3.6人	
		グリーン	7.0人	6.5人	
		サクラ	7.6人	5.8人	
		ブルー	4.5人	3.4人	
		市の財政負担額（利用者1人あたり）	866円	860円	
	③市内観光施設を巡る移動手段の確保	レンタサイクルの利用者数（年間）	150人	220人	<p>新型コロナウイルス感染症が流行して2年以上が経ち、外出を控える傾向も徐々に解消され、清洲城の来場者数が回復していることもあり、利用者数が伸び目標が達成できた。</p> <p>今後も引き続き観光誘客の促進と合わせた事業の周知に努める。</p>
II	④地域公共交通に関する積極的な情報発信	あしがるバス一日無料デーの参加者数	400人程度	421人	<p>3年ぶりに実施したあしがるバス一日無料デーは、ルート・ダイヤ改正の直後のタイミングであしがるバスへの関心が高い時期でもあったため、過去最大の利用者数を記録し、初めて利用した方も多くおられたと考えられる。</p> <p>今後も、新規利用者の獲得や継続利用のきっかけづくりとして継続して実施していく。</p>

※2 市民満足度調査結果により測定。